

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	ティピ			
○保護者評価実施期間	2025年 1月 30日 ～ 2025年 3月 7日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	41名	(回答者数)	22名
○従業者評価実施期間	2025年 1月 30日 ～ 2025年 3月 7日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)	5名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 31日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	就労システム『Delight』	<ul style="list-style-type: none"><li>・将来の就労環境を再現。</li><li>・就労に向けた練習を毎日実施。</li><li>・作業スキルの向上を目指すだけでなく、仕事とお金の結びつきを理解し、働く喜びを学べるようになっている。</li></ul>	
2	個人に合わせたスケジュールと集団活動	<ul style="list-style-type: none"><li>・1人ずつ課題や遊びを設定。</li><li>・今必要なスキルや、切り替える力を身に付けるために、個々に合わせたスケジュールを使用。</li><li>・他者と関わる場として、集団活動も積極的に取り入れている。</li></ul>	
3	『できる』を増やす個別療育※希望者のみ※	<ul style="list-style-type: none"><li>・集団に入る前に必要な個人のスキルを身に付けるために、1対1または2対1での個別対応を約1時間実施。</li><li>・アセスメントを基に課題設定を行い、個々に合わせた教材を作成している。</li></ul>	

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	外出（公園、おでかけ等）が少ない	外出等は移動支援を活用して行っているため、あえてデイサービスで外出は行っていなかった。 デイサービスだからこそ、室内でできる支援に注力していた。	外出する事で、地域交流もできると考えると、他者との関わりが必要不可欠となる中高生の年代では、地域への外出を検討する必要がある。
2	仕事内容のパターン化	同事業所から一定の仕事は手配できるため、新たな仕事内容を取り入れずとも、仕事量としては問題がなかった。	仕事内容がパターン化する事で、児童の作業スキルの幅も固定される可能性があるため、定期的に新たに仕事を導入していく。また地域の商店や工場と連携して、仕事を提供してもらうことで、地域連携も図っていく。
3			